

会員の年齢構成からの考察

まず読み物第一弾として「会員の年齢構成データからの考察」についての読み物をご覧いただきたいと思います。

これからのダンス界がどうなっていくのか、まずは現状把握をしっかりと、未来への確かな一歩にしていきたいと思います。

皆さん、ABDC って知っていますか？

「よく分からないけど、各団体の意識高い系の人たちが集まってなんかやってる組織」

「3 団体の選手の集まり？ DAN フェスとかフラッシュモブやってるよね」

「聞いたことはあるけど具体的にはよく知らない」

多くの選手はそんな印象なのではないでしょうか？

実は ABDC とは・・・

E-JBDF、JPCL、TNKS の 3 団体の選手会が一緒になり、
社交ダンス、競技ダンスにおける

1)社会的認知度の向上

2)業界の発展及び振興

3)所属選手の活動環境の向上

を目的に、

愛好家がダンスを楽しみ、選手が輝ける場を作り、若い世代やこれからの子供たちが夢を描ける。そんな環境づくりを、選手の立場から目指す。

それぞれがダンスを愛する一人の人間として、「ファン・ファースト、プレイヤーズ・ファースト」の精神に則り、国内プロ選手が力を合わせ、活動したい。

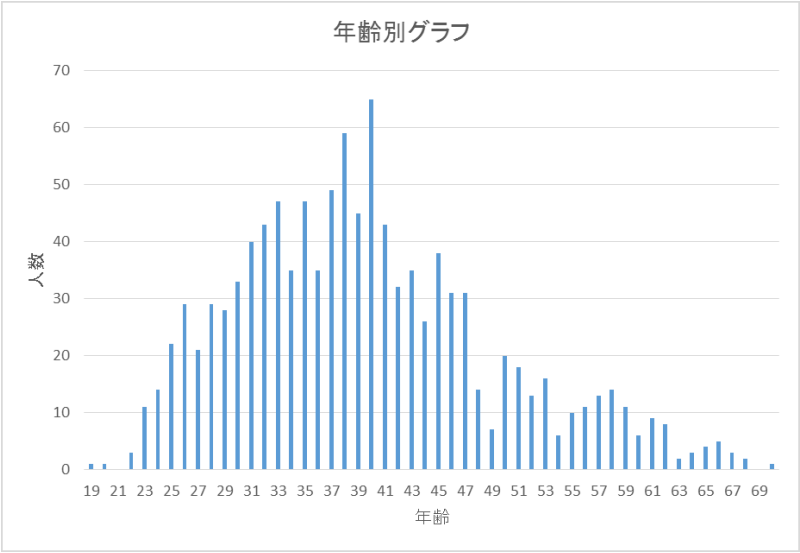
このようなことを考え、行っている組織なのです。

近年は愛好家の高齢化や新規愛好家の減少など抱える問題は多いですが、ダンスの魅力を発信し

続け、現状を打破したいと考えているわけですね。

ここに一つのデータがあります。E-JBDF と TNKS 現時点での生年月日を集計したものです。

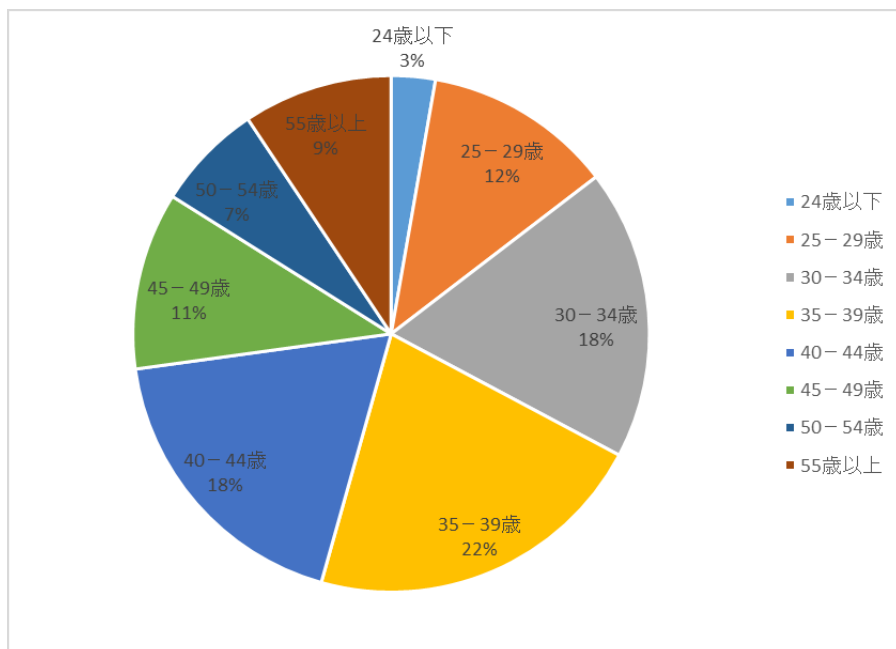
ここで一度、会員の年齢構成から予測される近未来について予想してみましょう。(JPCL は生年月日のデータがなく反映していません)



E-JBDF と TNKS 合計 1089 名。
最多人数は 1978 年の 40 歳で 65 名。次いで 1980 年 38 歳の 59 名。皆さんの想像通りでしたか？意外でしたか？

次にこのデータを 5 歳ごとの世代に分けた表とグラフです。

	人数	割合
24 歳以下	30	3%
25－29 歳	129	12%
30－34 歳	198	18%
35－39 歳	235	22%
40－44 歳	201	18%
45－49 歳	121	11%
50－54 歳	73	7%
55 歳以上	102	9%
	1089	



最多世代は 35～39 歳の 22%。24 歳以下は驚愕の 3%です。
 これはもう相当高齢化が進んでいっていますね。

さらに全選手が引退せずに経過した場合の年齢構成を、42 歳を境に分けてみました。

		現在	3年後	5年後	7年後
E-JBDF	41歳以下	564	445	365	295
	42歳以上	333	452	532	602
TNKS	41歳以下	136	102	74	62
	42歳以上	56	90	118	130

E-JBDF は 3 年後に半数が 42 歳以上に、TNKS は 4 年後に半数が 42 歳以上になります。
 7 年後はどのくらいの選手が現役でいるのでしょうか・・・？

次は、

現在 30－34 歳世代が 3,5,7 年後に 5%,10%,15%

現在 35－39 歳世代が 3,5,7 年後に 20%,30%,50%

現在 40－44 歳世代が 3,5,7 年後に 35%,50%,65%

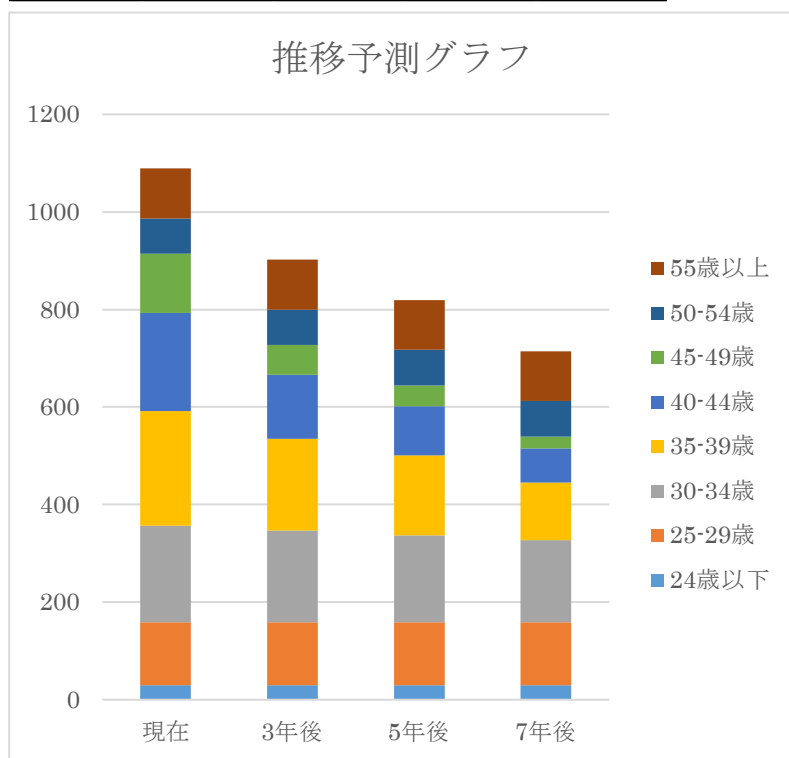
現在 45－49 歳世代が 3,5,7 年後に 50%,65%,80%

が引退すると仮定した場合の数値とグラフ

※29 歳以下と 50 歳以上は新入会員数と新たに 50 歳代になる会員数を同数と仮定したため横ばいとし
 ました

※E-JBDF と TNKS の総数。JPCL はデータがなく反映していません。

現年齢層	現在	3年後	5年後	7年後
24歳以下	30	30	30	30
25-29歳	129	129	129	129
30-34歳	198	188	178	168
35-39歳	235	188	164	118
40-44歳	201	131	101	70
45-49歳	121	61	42	24
50-54歳	73	73	73	73
55歳以上	102	102	102	102
計	1089	902	819	714



会員総数は3年後に187名（約17%）減
5年後に270名（約25%）減
7年後に375名（約34%）減
の見込みです。

経理視点からシミュレーションしたデータ（2017年データより）と照らし合わせると、JBDFは3年後にTNKSは7年後に赤字になるかもしれません。

もちろん必ずこのようになるわけではありませんが、このままでは決して楽観視出来る状態ではないですよね。

この現状を打破するためには、ダンス界全体で色んな手を模索しなければなりません。

ABDCは顧問や弁護士など選手以外の方の助言、指導にも耳を傾けながら話し合いを重ねています。皆さんの未来に直結する事ですので、ぜひ他人ごとにせず自らABDCの事柄に関心を持って頂きたくお願い致します。

また、まだまだ知恵が足りません。ぜひ皆さんの声を聞かせていただき、同じ業界の仲間として共に前

へ歩んでいけたらと思います。